

届け 世界の果てまでも

令和3年 2月24日

No. 67

文責 校長 飯久保一男

子どもたちの文字を見ていると …国語の学習から

まとめの時期になると、国語では漢字50問のテストがあります。苦手になっている子が多いテストです。子どもとは意味は違いますが、私もこのテストの採点をするのは苦手でした。そういう教員は多いと思います。

まず、1枚のテストを採点するだけで結構な時間がかかります。それが、30人分もあるともなると、相当な時間と根気や集中力が必要になります。

そして、私の経験上、厄介なのが、子どもたちの書いた漢字を見ていると、正しい字が分からなくなってしまうときがあることです。これは、このテストに限らず、ノートやワークシートに書かれた子どもたちの字を見ていると起こります。歌を歌っているときに、隣で音を外されて歌われると、それにつられて正しい音がわからなくなるのに似ています。



その1 へたつくそで、字の形はおかしいのですが、あっている場合

字のバランスが悪く、縦長だったり、横長だったり、必要以上に間があいていたり、頭でっかちだったり…というもので、正しい字に見えないのですが、よく見るとあっているという字です。

<例>活字では説明しにくいのですが、縦の罫線だけのノートやマスのないプリントなどに書かれた字は、縦長になると変なことが起こります。「羽」「立」「日」と縦に並んでいるのですが、「羽」と「立」がくっついていて「日」が離れていると「翌日」に見えます。ところが「羽」と「立」が離れ「立」と「日」がくっついていけば「羽音」と見えてしまいます。子どもは「翌日」と書いているつもりでも、「羽」の部分を縦長に書いてしまうと「羽音」に見えてしまうこともあります。

その2 正しい字に見えるのですが、何かが違う場合

注意深く見ないと見逃しそうな誤答、正しい中に紛れていると意外と気づかない誤答があります。そこを注意してみるのが教師なのですが…。

<例1>「けつろん」→「決論(×)」「結論(○)」や「ぎゃくてん」→「逆点(×)」「逆転(○)」など、意味の上でもごまかされそう(語弊があります)になります。

<例2>子どもたちの中には、似ている漢字「因」⇔「困」や「難」⇔「勤」などの混乱、「困難」が「因勤」となってしまうような混乱があります。教師にとってもこれらはミスを見逃すミスをしそうになります。

<例3>「あれ、これって横線は三本だったっけ」「この字は下の線が長かったっけ」など、かなり悩まされます。

短い時間で効率よく採点をしようと思うのですが、そんなこんなで結構な時間がかかるのです。漢字を正しく書くこととともに、正しく採点することも難しいことなのです。

漢字のテストを自己採点させることもあります。その結果を見せるように指示をし、正しく採点できているかチェックをします。私は子どもが×を付けた字ではなく、○を付けた字を注意深く見るようにしていました。自分で×を付けたものは間違いに気づいているのでOKですが、間違っている字に○を付けていたら間違えた字を覚えてしまいます。結構、何人もの子が、間違えている字に○を付けてきます。

正解を見ても間違いに気づかないことは、大人でもやってしまうミスかもしれません。



【おまけ その1】 笑ってしまう誤答

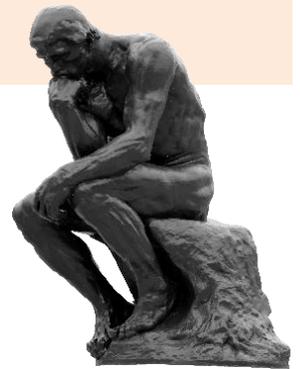
採点をしていると、思わず吹き出してしまいう誤答が出てきます。イチイチ突っ込みたくなります。

- 「クジラがしおをふく」 → 「クジラが湖をふく」
クジラがふいた潮で湖ができたってこんけ？
- 「てっきんコンクリート」 → 「鉄筋コンクール」
つい〇しちゃったじゃん。そんなコンクールあるわけねえじゃん。
- 「こまったかお」 → 「困った親」
まあウチの息子に言わせりゃあ、そう言うかもしれんけどね。
- 「すいめんにはひかりがはんしゃする」 → 「水面に光が発射する」
マジンガーZの発進シーン（ご存知ですか）みてえじゃん！
- 「すりむいたきずがいたい」 → 「すりむいた腹が痛い」
腹をすりむくって、どんな転び方をしたでえ？



おもしろい「マチガイ」が他にはないかと、インターネットで調べてみたら、漢字の間違いの他に、次のようなものを見つけて夜中に一人で笑っていました。

- 「あたかも」を使って短文を作れ。 → 冷蔵庫に牛乳があたかももしれない。
- 「どんより」を使って短文を作れ。 → 僕はうどんよりそばが好きだ。
- 「みるみるうちに」を使って短文を作れ。 → ヤクルトおばさん「ミルミル」うちに持って来る。
- 「あながち」を使って短文を作れ。 → お尻のあながちちょっとかゆい。
- 「〇光石〇」の〇に漢字を入れ四字熟語を作れ。 → 出光石油。



【おまけ その2】 一見、矛盾している「逆順配当漢字」

漢字を学んでいく順はどの順がいいか、その順は難しい問題をはらんでいます。小学校で学習する漢字は、全部で1026字もあります。この1026字を、どの学年で学習するのは、学習指導要領の「学年別漢字配当表」に定められています。…ちなみに、中学校3年間で学ぶ漢字は1110字ですが、中学校ではどの学年でどの字を学ぶとは定められていません。

さて、小学校の学年別の漢字配当表を見ますと、学習順が逆では？ という関係の漢字があります。例えば、「線」という漢字は2年生で学習しますが、その一部にあたる「泉」は6年生で学ぶのです。

「逆順配当漢字」といいます。「村」と「寸」など、何十もあります。先に「泉」を学び、その後に「線」を学ぶ方が、合理的だと思いますが、子どもたちの生活に近い漢字から先に学習する、子どもたちがよく使う言葉から先に学ぶという方針によって、「泉」を学ぶよりも先に「線」を学習することになっているとのことです。

引	羽	雲	園	遠	何	科	夏	家	歌	画
回	会	海	絵	外	角	楽	活	間	丸	岩
顔	汽	記	帰	弓	牛	魚	京	強	教	近
兄	形	計	元	言	原	戸	古	午	後	語
工	公	交	光	考	行	高	止	黄	合	谷
国	黒	今	才	細	作	算	弱	市	矢	姉
思	紙	寺	自	時	室	社	新	首	秋	週
春	書	少	場	色	食	心	船	親	団	数
西	声	星	晴	切	雪	池	知	茶	前	走
多	太	体	台	地	雪	池	知	茶	前	長
朝	直	通	弟	店	点	内	南	肉	馬	東
答	頭	同	道	読	内	分	聞	米	馬	買
麦	半	番	父	風	明	理	毛	門	步	方
北	用	囉	来	里	理	毛	門	夜	野	友

胃	異	遺	域	株	映	延	沿	恩	我	灰	拈
革	閣	割	胸	胸	干	卷	簡	危	机	揮	貴
疑	吸	供	刺	刺	郷	勤	筋	敬	警	刺	激
穴	券	網	樞	樞	憲	勲	系	呼	誤	后	孝
直	紅	降	鋼	鋼	私	毅	己	砂	座	濟	裁
策	冊	臺	至	至	宗	裝	視	誌	磁	射	捨
尺	著	樹	取	取	就	將	骨	縱	縮	熟	純
処	若	諸	除	除	就	宜	傷	蒸	針	仁	垂
推	寸	盛	聖	聖	誠	專	宜	蒸	泉	洗	錢
善	担	密	創	創	裝	層	操	藏	職	存	頂
宅	潮	探	誕	誕	展	暖	值	宙	忠	著	退
勝	納	貨	誼	誼	展	展	討	黨	志	著	乳
認	依	脳	冰	冰	展	展	肺	排	班	片	批
秘	忘	腹	奮	奮	展	展	閉	排	補	難	訪
亡	欲	棒	枚	枚	展	展	盟	片	暮	否	預
幼		壘	卵	卵	覽	覽	覽	襖	郵	優	論